



とと @fishchicken28 · 38 分鐘

...

柔道決勝、台湾の楊選手がイケメンすぎて
妻がずっとテレビ観てる



↻ 1

♡ 10



柔道の台湾代表イケメン選手が銀メダルに頼ずり「激カワ」と胸キュンする人続出

7/25(日) 17:29 配信

1年遅れでついに開幕し、早速熱戦が繰り広げられている東京五輪。 「Hint-Pot スポーツ SNS 調査隊」では、SNSで反響を集めた話題からこの機会に知ってほしい選手やちょっとほっこりするネタなどをお届けします。

今回は、柔道男子60キロ級決勝で銀メダルに輝いた台湾人選手が表彰式で見た仕草について。日本と台湾のファンが「かわいすぎる」と盛り上がっています。



高藤選手と健闘を称え合う姿にも称賛の声が

24日夜、日本武道館で行われた柔道男子60キロ級の決勝。高藤直寿選手（パーク24）と台湾の楊勇緯（よう ゆうい）選手による戦いは、日本にとって今大会最初の金メダルが期待されただけに、日本中が固唾を飲んで見守りました。結果は接戦の末に高藤選手が見事勝利。金メダルの獲得に祝福の声があふれました。

一方、銀メダルを獲得した楊選手のイケメンぶりにも、たくさんの声。ゴールデンスコア方式の延長戦で指導3つを受けての惜敗でしたが、試合後はすぐに高藤選手とがっちり抱き合い、一緒に手を挙げて健闘を称え合いました。スポーツマンシップに則ったさわやかな対応は感動を呼んでいます。また、金メダルには手が届かなかったものの、台湾柔道界にとっては初メダルという快挙。表彰式でメダルを首にかけた楊選手は感無量の様子で両目を閉じると、実に愛おしそうな表情でメダルに頼ずりをしました。ほんの一瞬の出来事でしたが、ツイッター上には歓喜の悲鳴が。「銀メダルの台湾の選手メダルに頼ずりしてて激カワだった……ひえ～ってなったw」

「楊勇緯選手のこの銀メダルをほっぺにすりすり～する所で台湾の方たちも『好可愛啊～』ってなってて全世界がやっぱりそうなるよね～って思ったわ」「台湾の選手のメダルすりすりめっちゃキュンとした…!!」など、メロメロになる人が続出しました。日台ファンを夢中にさせた楊選手は現在23歳。今回の銀メダルを弾みにしたさらなる飛躍は間違いなしでしょう。これからの活躍にも期待ですね。

柔道の「畳」は「タタミ」に進化。クッション性高く、テレビ映えも

2021年7月24日 10時30分

1964年に白一色の柔道着、緑の畳で五輪競技として出発した柔道。2度目の東京五輪で使われる「タタミ」は、当時の「畳」から大きく変化しました。

柔道の畳、今は「タタミ」に 衝撃抑えカラフル、テレビ映えも意識

「タタミ・ワン」「タタミ・ツー」。柔道の国際大会に行く
と、こうしたコールが会場に響く。柔道界では「タタミ」は世界共通の言葉だ。でも、選手が立つ「タタミ」は、実は「畳」ではない。

柔道が初めてオリンピック（五輪）種目になった1964年東京五輪。選手の足元は緑の天然色だった。畳は、大分県産のキャツリグサ科の植物「七島藨（しちとうい）」で編まれたもの。七島藨は、一般的な畳に使われるイグサよりも丈夫で耐久性に優れ、濃い緑色が特徴。柔道創始者の嘉納治五郎が講道館の畳として選んだという逸話も残り、当時、柔道畳として重宝されていたという。



その後、天然素材の青畳は、時代の波を受けて姿を消した。クッション性が高く、投げられても体への衝撃が小さい体操のマットのような「タタミ」が主流に。現在の素材はウレタンなど化学素材だ。世界中のメーカーが緩衝性や耐久性を向上させ、防臭や抗菌機能も備えたハイテクな畳が広まっている。

変わったのは素材だけではない。色もぐっとカラフルになった。2004年アテネ五輪では、日本のスポーツメーカー「ミズノ」がギリシャの大理石をイメージしたアイボリー（象牙色）の畳を提供。12年ロンドン大会はフランスのメーカー製で場内が黄、場外部分が赤という鮮やかな組み合わせの畳が使われた。16年リオデジャネイロ大会は、ロンドン大会と同じ黄と赤の畳を中国企業が作った。今回の東京五輪も中国企業の製品で当初、「テレビ視聴者に見やすい色」という理由で、場内が青、場外が赤という新たな色の組み合わせにする予定だった。ところが、19年世界選手権でテストしたところ、青色の畳の導入を訴えていたテレビ局側が「白い柔道着に畳の青が反射してしまう」と翻意した。「テレビ映え」を巡って二転三転し、結局、3大会連続で黄と赤の組み合わせに落ち着いた。そもそも青色の畳は、日本の柔道関係者から不評だった。柔道着でも青色が使われているため、「見分けがつきにくい」というのが理由だ。「目がチカチカする」と違和感を訴える選手もいた。

1964年に白一色の柔道着、緑の畳で五輪競技として出発した柔道。ずいぶんと形をかえて、2度目の東京五輪を迎えている。



韓国女子金メダリスト、短髪への中傷相次ぐ女性が一斉に援護

7/30(金) 2:02 配信

東京五輪で2個の金メダルを獲得した韓国女子アーチェリーの安山（アン・サン、An San）に対し、髪が短いことを理由にインターネット上で男性からの中傷が相次いでいる。29日には、女性からの応援メッセージが多数寄せられた。男性らは、安の髪型はフェミニストの証しだと非難。安に対して謝罪やメダルの返上を要求する声までも上がっている。

韓国は世界12位の経済を誇る技術大国だが、社会は今も男性優位で、女性の権利面では後れを取っている。最近ではフェミニズムに対する反発が高まり、「過激なフェミニズム」を推進しているとされる企業が男性らからボイコットを受け、謝罪する事態ともなっている。

20歳の安は、東京五輪アーチェリーの女子団体と混合団体で2個の金メダルを獲得。女子個人では、ランキングラウンド（予選）で680点をマークして1996年の五輪記録を更新しており、3個目の金メダルを目指している。

著名人を含む多くの韓国人女性が、安に対する中傷を批判。女性議員の張恵英（チャン・ヘヨン、Jang Hye-yeong）氏はツイッター（Twitter）への投稿で「たとえ自分のスキルや能力で五輪金メダルを獲得しても、性差別が社会にまん延している限り、髪が短いというだけでメダル返上を要求される侮辱を受けている」と指摘。「韓国アーチェリーが世界最強になったのに、性差別により国家の品格は地に落ちるといふ奇妙な日を私たちは迎えている」と嘆いた。

現地報道によると、安への支持を示すため、ソーシャルメディアには短髪の女性の写真が少なくとも6000枚投稿された。写真を投稿した女性の中には、女優のク・ヘソン（Koo Hye-sun）さんや韓国の最年少国会議員である柳好貞（リュ・ホジョン、Ryu Ho-jeong）氏も含まれる。



東京五輪、アーチェリー女子個人の競技に臨む韓国の安山（2021年7月29日撮影）。【翻訳編集】 AFPBB News